

令和 6年 3月25日

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

宇城市長 守田 憲史

|                   |                     |  |
|-------------------|---------------------|--|
| 市町村名<br>(市町村コード)  | 宇城市<br>(43213)      |  |
| 地域名<br>(地域内農業集落名) | 豊川地区<br>(松橋御船集落)    |  |
| 協議の結果を取りまとめた年月日   | 令和5年11月28日<br>(第1回) |  |

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

## 1 地域における農業の将来の在り方

### (1) 地域農業の現状及び課題

当地区は、高齢化及び後継者不足ため、農業者の減少が進行している。農業者の減少に伴い、耕作放棄地の発生、道路・水路等の農業用施設の維持・管理の負担が増加等の課題が発生している。基盤整備後約30年経過し、農業用施設、道路、水路の老朽化が進んでおり、再整備が求められる。また、海に近く水源が少ないことから水質悪化や塩害が発生しており、さらに鳥害の発生していることから対策が求められる。

### (2) 地域における農業の将来の在り方

担い手の農作業効率化のため、農地中間管理機構を活用し、農作業受委託で農地の集積集約化を図る。品種ごとで団地化を進め、機械利用組合の効率的な運用を目指す。また、集落営農組合の設立による共同作業を進め、新規就農者・後継者を育成し、担い手を確保する。

## 2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

### (1) 地域の概要

|                                  |       |
|----------------------------------|-------|
| 区域内の農用地等面積                       | 71 ha |
| うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積      | 71 ha |
| (うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】 | - ha  |

### (2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

|                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)農用地の集積、集約化の方針                                                                                           |
| 営農組織を設立し、農地の集積・集約化を進める。機械利用組合が効率的に作業できるよう、品種ごとによる団地化を進める。                                                  |
| (2)農地中間管理機構の活用方針                                                                                           |
| 地区で小作料の基準を明確化し、農地中間管理機構の利用で賃借のマッチングを進める。                                                                   |
| (3)基盤整備事業への取組方針                                                                                            |
| 基盤整備後約30年経過しており、老朽化している農業用施設、道路、水路の再整備や施設園芸の用水確保を目指していく。                                                   |
| (4)多様な経営体の確保・育成の取組方針                                                                                       |
| 営農組合の設立による農地の団地化を進め、既存の共同作業を継続し、担い手確保を図る。また、地区内外での農業研修の受け入れにより、新規就農者・後継者を育成し、担い手を確保する。離農者や退職者による担い手確保を進める。 |
| (5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針                                                                        |
| 地区内の機械利用組合を活用し、農作業受委託を拡大し、担い手への農地集積を図る。                                                                    |

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

|                                    |                                      |                                            |                                          |                                          |
|------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策 | <input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料 | <input type="checkbox"/> ③スマート農業           | <input type="checkbox"/> ④輸出             | <input checked="" type="checkbox"/> ⑤果樹等 |
| <input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等 | <input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等     | <input checked="" type="checkbox"/> ⑧農業用施設 | <input checked="" type="checkbox"/> ⑨その他 |                                          |

【選択した上記の取組方針】

⑤ワイン用ブドウの栽培、ワイン製造による特産物の生産を目指す。

⑧老朽化した農業用施設、道路、水路等を再整備し、維持・管理の負担の軽減を進める。

⑨JAのカントリーエレベーターの新設を支援、低料金での利用を目指す。地区での農休日設ける。